長沼町総合振興計画審議会　教育部会（第１回）議事概要

日　時：平成２２年１２月９日　１０：１０～１１：４０
出席者：谷川松芳部会長、鈴木彩加、服部正幸、水野正一、桃野誠一各部会員

・　谷川部会長挨拶
・　協議事項～第６章
　以下要約にて報告します。

谷川部会長
　本日は、６章をメインに協議し、他の共通する部分は後日といたします。
　まず、生涯学習について、それぞれのご意見があればどうぞ。
　現況と課題の「社会参加や地域コミュニティ活動の活発化」とあるが、実行するのは町内会・自治会である。その意識から改革しなければならない。
　行政が「してあげる」という感覚がある。行政区事務費は、税金で活動を手当てしている。

桃野委員
　生涯学習は何かを考えると、大変幅広い。町の生涯学習について、住んでいる人間が実感しなければならない。例えば、都府県民にとって札幌はいいイメージがあるが、住んでみたいかは別問題であるような。

谷川部会長
　今回出された「子どもアンケート」は、子どもならではの意見である。子どもと一緒に買い物、食事の場が無い。そういう場が無いのは、事業としてペイしないからだろうか。
　レストランも１件ではダメ。２件３件あることの相乗効果を商工関係者が学ぶことが大切。

桃野委員
　生涯学習をかみ砕き、現状を知ること。

水野委員
　大人を育てる意味もある。

谷川部会長
　花いっぱい運動を例にとると、住民の手で行うから価値がある。これが業者委託ならしないほうがいい。
　だが、町民には「行政の下請け」という考えもあるのは事実。

桃野委員
　花いっぱい運動の効果を、波及的なものも含め、町民・行政とも理解すべき。『なぜやらなければいけないのか』を参加者は理解しているのか。課題を共有しないと次につながらない。
　花いっぱい運動も生涯学習の１つと考えられるが、生涯学習を通じて、住民の手で何かを行うことの重要性や効果を知ることが重要ではないか。

水野委員
　花はまちづくりの活動。第３者的な立場の人で、『何なんだ』と理解しない人もいる。
　直売所についても、「花がきれい」→「立ち寄って売り上げにつながる」→「購買によるブランド力」になる。
　花の町であり、住みよい町になること、また、グリツリの効果についても、直売所に行かない人、花いっぱい運動に参加しない人に発信すべき。

谷川部会長

花は安心を伝える。ただ、その安心を与えているのは行政ではない。行政から「やれ」という時代ではなく、「住民活動」である。

広報の１ページをみても、寄付者３名の写真を出すより町民活動を掲載し、町民のための広報誌にする意識改革をもってほしい。

【第1節　生涯学習の充実】

桃野委員

文章をわかりやすく、町民に理解してもらえるようにしたい。

文章の中に、小中学生からの生涯学習の取組を進めることについて触れてほしい。大人になってから教わるのではなく、常日頃から。「大人のための生涯学習ではなく、子どもの頃から」だという文言。

谷川部会長

小・中・高連携を伝えたい。

【第2節　家庭教育の充実】

谷川部会長

福祉分野、図書館などとの連携。乳児期から。

文中「関係機関」とあるが、「福祉・図書館」などとしてはどうか。

水野委員

家庭教育の相談体制や支援策。いじめについてはどうか。

桃野委員

親が理解していない部分もある。

服部委員

家庭教育、義務教育がわかっていない。「主な施策」では、家庭教育を中心に進めたい。

桃野委員

学校教育で悩んでいる親もいる。どう育てていいかわからない親への相談事業を進めるほか、地域に相談員を置くなどが必要。今は地域力が足りないのではないか。

鈴木委員

見た目にはわからないが、子どもには障害を持つ子もいる。親も気づかないケースもある。

桃野委員

保健師の活動も、今はメタボなど検診に力を入れているが、子どものケアも必要である。

鈴木委員

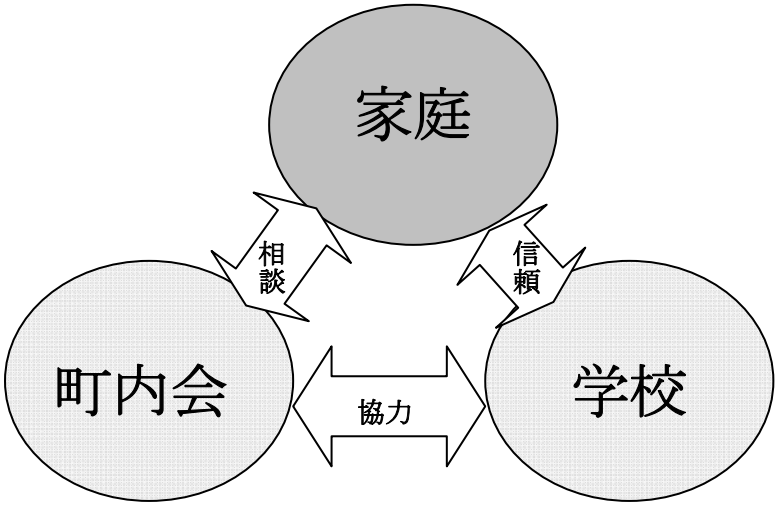
障害に気づかないと、ただの問題児扱いとなってしまう。

谷川部会長

相談体制の充実が必要。町内会や民生委員。

鈴木委員

（次ページのような）図で示したほうが良いのではないか。



【第3節　義務教育の充実】

水野委員

農村部に子どもはいない。教育委員会は腰を上げないが、学校の配置については見直しが必要ではないか。

桃野委員

子どもたちに、どういう教育を受けさせるか。財政状況ではなく、平等に教育ができるか。

小規模校だからできるなど、地域ごとに考え方がちがうが、地域疲弊ではなく、子どもを中心に考えなければならない。

水野委員

子どもは大勢の中で育てていきたい。中学校になってから部活問題もある。

桃野委員

保育園の問題もある。

服部委員

町の財政も言うべきではないか。送迎のある南幌町の幼稚園に行ってしまう。

水野委員

『南には自分の好きな部活がないので中央に行きたい』という子どももいる。しかし、他地区には理解してもらえない人もいる。

桃野委員

それらは地域でカバーしなければならない。

複式学級で、風邪で休んだ子がいると、クラスメイトは１人２人で黒板に向かうことになる。それを見ると・・・。

水野委員

小規模の子は学力がある。ただ、上の学校でいきなり大勢の子どもの中に入ることのカルチャーショック。１００％ではないが。

桃野委員

保護者の中には「小規模なのでここに来た」「バスを使ってでも中央に行きたい」など様々である。

「５）教育環境の整備充実」で、教育のあるべき姿について記述を。（統廃合を含めた議論を検討中）

【第4節　高校教育の充実】

桃野委員

小中学校で何を伝えるか。親は学校の意識を理解していき、どういう学校（高校）になっていきたいか。農業やコンピューターなど専門分野も。

少子化だから困難だとばかり言ってもダメ。

水野委員

長高存続のための検討も必要。

桃野委員

高校生にも住民に発表の場を設けることも大切。

谷川部会長

小・中・高連携が無い。

長沼には芸術家もいるし、長沼高校から芸術家を輩出する「高校教育」を。

水野委員

オンリーワンの高校を目指す。

谷川部会長

ゴルフについても、「長沼高校に通えばプロになれる」なども。

【第5節　社会教育・社会体育の充実】

水野委員

施設整備が課題。使われていない施設の有効活用。温泉もあるし、大学などに合宿のＰＲをして誘致する。

鈴木委員

学校統合後、旧校舎を利用する町もある。

服部委員

学校の開放も視野に入れて。

谷川部会長

地域の施設を利用することを盛り込んでほしい。

【第6節　文化の振興】

桃野委員

文化財の保存施設の整備。将来的に伝承しなければならない。

鈴木委員

現在の保存施設は。

桃野委員

今は無い状況。美術品は役場や図書館で飾っているが、博物館や貯蔵庫的なものはない。

鈴木委員

高木記念館の利用はどうか。あまり使われていないようだが。

谷川部会長

保存施設について記述をお願いしたい。

谷川部会長

そのほか、ご意見等はございませんか。

（なしの声）

では、本日の協議を終了いたします。

次回の部会については、１２月２４日９時から行います。